日小整会誌（J Jpn Ped Orthop Ass）**23**(1)：203-205, 2014.

Murakami-Sano-Sakamaki Asia Visiting Fellowship 報告

大阪大学医学部整形外科
吉　田　清　志

今回私は2013年後期のMurakami-Sano-Sakamaki Asia Visiting Fellowshipに選任され，2014年1月12日から21日までタイ王国のバンコクに行ってまいりましたので，ご報告させていただきます．

タイ王国は人口約6000万人で，年間平均気温28℃の熱帯気候の国で，2月～5月が暑季，5月～10月が雨季，10月～2月が乾季です．私の訪れた1月はベストシーズンであり，乾季で気温もそれほど高くなく，快適に過ごすことができました．

ただし，国内政情は不安定であり，2014年2月の総選挙の前に2013年末頃から所々でデモが行われておりました．バンコクへ向かう飛行機の中での新聞に翌日から大規模デモが行われるという記事を発見し，不安いっぱいの旅立ちでありました．1月13日から病院見学の予定でしたが，新聞の報道通りバンコクで大規模デモがあり，市内の全域にて10万人規模のデモ行進がありました(写真1)．見学予定の病院も通常業務は数日間キャンセルとなり，デモに伴うけが人などの緊急対応ということで，3日間は病院見学が中止になりました．

Fellowshipの話に戻りますが，今回バンコクにあるMahidol UniversityのSiriraj HospitalのPanupan教授にお世話になりました．Panupan教授は成人の腕神経叢損傷や小児の分娩麻痺で非常に有名な先生であり，川端秀彦国際委員長にご紹介いただきました．滞在中は主に同じ病院の小児整形外科医であるPeerajit先生にお世話になりました．Panupan教授は以前に日本小児整形外科学会のFellowshipで来日し，大阪市立総合医療センターや福岡市立こども病院などを訪れ，非常に親切に案内をしてもらった経験から，今回非常に親身に対応していただきました．

初めにバンコクにあるSiriraj Hospitalを訪問しました．タイ国内最古の病院で，3000ベッド以上ある非常に大きな病院でした．整形外科もPanupan先生はじめとして各分野での6名の教授，スタッフドクターが約40名，レジデントが40名程度と大規模な病院であり，タイ最大の病院の1つです(写真2)．Siriraj Hospitalではカンファレンス，手術や外来業務を見学させていただきました．カンファレンスでは前日に行った術後のX線をレジデントの先生が発表され，スタッフドクターが活発に意見を述べているのが印象的でした(写真3)．手術は整形外科だけで

写真1.

写真2.

写真 3.

写真 5.

写真 4.

写真 6.

毎日 4 部屋で行われ，私は主に小児整形外科の手術見学および手洗いをさせていただきました．なかでも，先天性脛骨偽関節の患者に対してイリザロフ創外固定器を用いた手術がいましたが，手術時間が 1 時間半程度で非常に手早く装着されておりました(写真 4)．手術数が多いので，ほとんどの手術の時間は日本よりかなり短かったです．外来も小児整形外科を中心に見学させていただき，レジデントの先生がギプスカットや処置をされ，スタッフドクターが行き来して非常に多くの患者の診察をされていました(写真 5)．また，病院から少しはなれたところにある Sirindohorn School of Prosthetics and Orthotics という装具の学校および診察も見学させていただきました(写真 6)．15 ドルの Dennis-Brown 装具や義足なども見せていただきました．日本では最近使っていないような義足が多かったですが，タイでは経済発展により糖尿病患者が増え，糖尿病壊疽による下肢切断が急増しているそうです．

写真 7.

Ramathibodi Hospital では，タイに Ponseti 法を導入した Amnuay Jirasirikul 先生の外来を中心に見学させていただきました．先生は日本留学のご経験があり，日本語も非常に上手で casting，診察方法などさまざまなことを

丁寧に解説していただきました(写真 7).

Fellowship 期間中，毎日 Siriraj Hospital の Peerajit 先生やレジデント先生と会食し，休日には観光なども連れて行っていただき，非常に楽しい時間を過ごすことができました(写真 8).

最後になりましたが，このような貴重な機会を与えていただきました日本小児整形外科学会の皆様に心より御礼申し上げます.

写真 8.